

**【氏名】**

太田 麻希子

**【所属大学院】（助成決定時）**

お茶の水女子大学 大学院 人間文化研究科

**【研究題目】**

再生産の〈保障〉なき空間—フィリピン・マニラ首都圏における「スラム」の研究

**【研究の目的】**

近年、グローバリゼーションに伴う都市の就業構造の再編により、都市下層を捉える諸概念の見直しが職住両側面に渡り進んでいる。これまでのフィリピンの「スクオッター・スラム」の居住闘争に関する研究では、「住民」間における階層の存在が軽視される傾向にあった。スクオッターの住民間で階層分化が進行していることは指摘されているが、これが居住闘争のあり方にどう反映しているのかは明らかにされていない。

これに加え、フィリピンでは土地や都市サービスをめぐる居住闘争への女性参加が目立つことが指摘されているが、その役割は十分に議論されてこなかった。国家や市場による労働力再生産の〈保障〉が制限された空間では、制限された分はジェンダーが介在し世帯や世帯構成員の再生産に責任を負う女性の労働により補完される。この視点からするとこの種の活動は欠落した労働力再生産手段の獲得に女性が動員されているものとみなせる。

以上の問題意識に基づき、本研究ではフィリピン・マニラ首都圏の「スクオッター・スラムとその住民」の居住闘争の分析に階層とジェンダーという視座を導入することにより、これを自明のものとして研究対象化することを問い直すことを目的とした。

**【研究の内容・方法】**

マニラ首都圏の幹線道路沿いにある公有地に立地する「スクオッター・スラム」でフィールドワークを遂行した。この集落は2006年に地域の横を通る道路の拡張工事のため一部の区域が強制撤去に遭っている。撤去に遭わなかった区域については自治体が産業用地として開発するため、首都圏内に宅地を造成し住民を移転させる計画を策定していた。

調査時点でこの集落で土地問題に関わっている住民組織は5つ確認でき、うち4つは役員・会員の多くが女性で占められている組織であった。このうち2つの組織の女性リーダーを中心に聞き取り調査を行なった。この二組織は撤去区域外の土地をめぐり活動しており、移転に反対する組織のリーダーは集落内で雑貨店を中心に多角的に商売を展開しているのに対し、賛成派の組織のリーダーはバランガイ関係者であり、世帯の収入源は本人のバランガイの謝金のほか、水産物加工販売店で働く夫の賃金と専門職の長男の仕送りというように、集落外にあった。

これを踏まえ、住民組織のリーダーや行政関係者に対する聞き取り調査に加え、住民間の階層化の実態を把握し、コミュニティに対する経済的利害関心と住民組織への関わり方の関係を考察するため、スノーボール方式によるサンプリングにより質問票を使った世帯調査（有効回答数 77）を行なった。それにより判明した 15 歳以上の世帯構成員の職業をインフォーマル／フォーマル就労に分類した。

#### 【結論・考察】

世帯調査の結果、雑貨店経営や物売り、荷役人夫、サイドカー運転手など伝統的インフォーマル部門の就業に加え、工場労働者や建築労働者といったフォーマル部門におけるインフォーマル就労、少数ではあるが会社員やコールセンター勤務、公務員などフォーマルなホワイトカラーの就労に従事する女性や海外出稼ぎ者も散見され、就労先が多様化している傾向が見受けられた。住民組織のリーダー・役員にはインフォーマル部門の経営者やフィリピンの最小行政単位であるバラングイの関係者など、いずれも集落と関係が深い職業に従事している者が多くみられた。

インフォーマル部門の代表的職種であり、集落内で営業可能で顧客も地元の住民で占められている物売りや雑貨店経営は、大部分が女性の就労者で占められる零細経営であるが、経営規模が大きく高収入を得ている上層も存在した。これらの経営者層は世帯単位で配水、住宅賃貸など住民にとっての必需品を供給する商売を並行して営み、この集落自体に経済的基盤を持っている。これらのインフォーマル部門上層には多数の貧困層に「依存」することでしか生活基盤を維持できない層もいると考えられる。

このような関係や階層性を抜きにして住民による居住闘争を「スクオッター・セトラ」や「都市貧困層」による運動と一元的に捉えてしまうのは、ある種の不平等な構造を覆い隠してしまうことになりかねない。今後は、インフォーマル部門上層に属する女性たちとそうではない女性たちが結ぶ社会経済的関係を住民組織の活動を主たる事例として明らかにしていく作業が必要となろう。これに加え、新しく出現したフォーマル部門の就労層の女性が地域にどういった形で関わっていくのかを調査していく次第である。